

地域医療構想の実現に向けた、 奈良県における 医療提供体制等の分析

奈良県 医療政策部
奈良県立医科大学 公衆衛生学
林 修一郎

目的

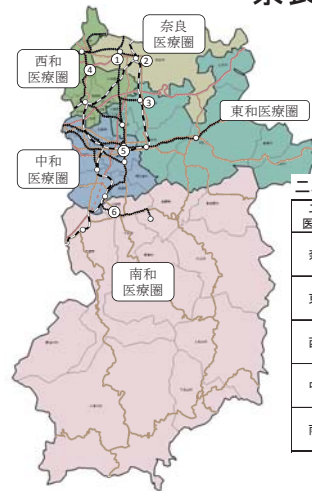
地域医療構想の実現に当たっては、地域の実情に応じた医療提供体制の構築が必要である。

奈良県を例に、医療提供体制の特徴や、医療ニーズの動向を客観的に把握するとともに、医療機関の認識についても把握し、地域における医療提供体制の改革に向けた具体的な対応策を探る。

方法

- 政府や都道府県の統計情報等を用いて、奈良県の医療提供体制及び医療ニーズについて総合的な分析を行った。
 - 政府統計(医師・歯科医師・薬剤師調査、病院報告等)
 - DPCデータ
 - 医療機能情報提供制度による公表情報
- 県内の全病院へのアンケートにより、今後の経営の見通しや課題についての病院側の認識を調査した。

奈良県の概況



地理的には、
県北西部に人口が集中しており、
医療体制を構築しやすいはず。

二次医療圏ごとの構成市町村、人口、面積

二次医療圏	区域 (市町村名)	人口 (単位:人)	面積 (単位:km ²)
奈良	奈良市	362,335	276.94
東和	天理市、桜井市、宇陀市、山添村、川西市、三宅町、田原本町、香櫛村、御杖村	214,591	657.77
西和	大和郡山市、生駒市、平群町、三郷町、斑鳩町、安堵町、上牧町、玉寺町、河合町	352,960	168.49
中和	大和高田市、橿原市、御所市、香芝市、葛城市、高取町、明日香村、広陵町	382,658	240.79
南和	五條市、吉野町、大淀町、下市町、黒滝村、天川村、野迫川村、十津川村、北山村、上北山村、川上村、東吉野村	76,835	2,346.92
奈良県合計		1,389,379	3,690.91

(人口は平成27年10月1日現在 住基人口)

1 医師数とその動向

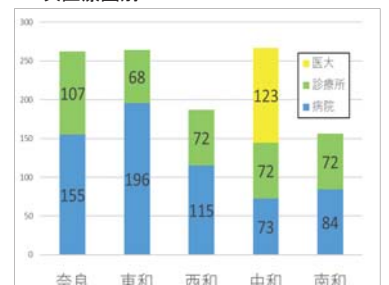
人口10万対医師数

- 奈良県では、病院関係者を中心に、医師不足感が極めて強いが、病院医師数は、南和地域を除いて、全国平均と遜色ない水準である。

奈良県と全国平均の比較



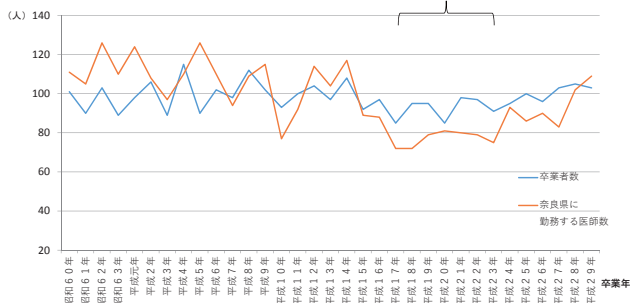
二次医療圏別



卒業年次別に見た県内医師数

(点線は当該学年の奈良県立医大卒業生数)

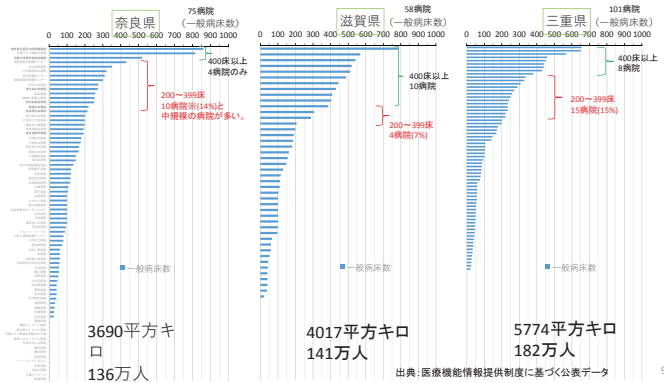
- 新臨床研修制度の施行後の平成16年度以降に卒業した医師については、県内での就業者数がそれ以前より減少している。



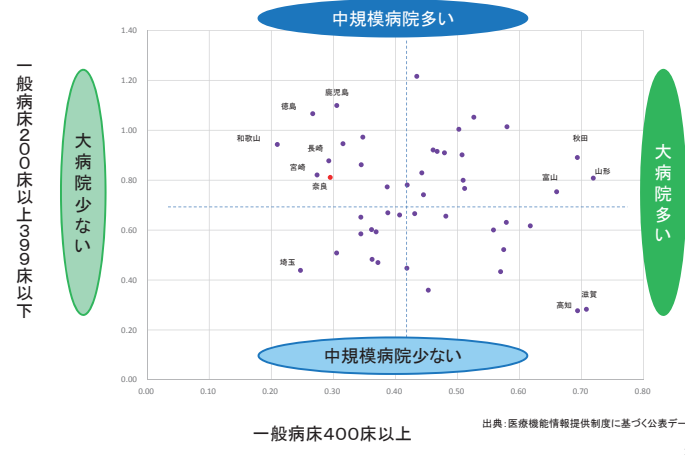
2 病院の規模と病院数

病院ごとの一般病床数

● 奈良県には、一般病床400床以上の大規模病院が比較的に少ない一方で、一般病床200床～300床代の中規模病院が比較的多い。

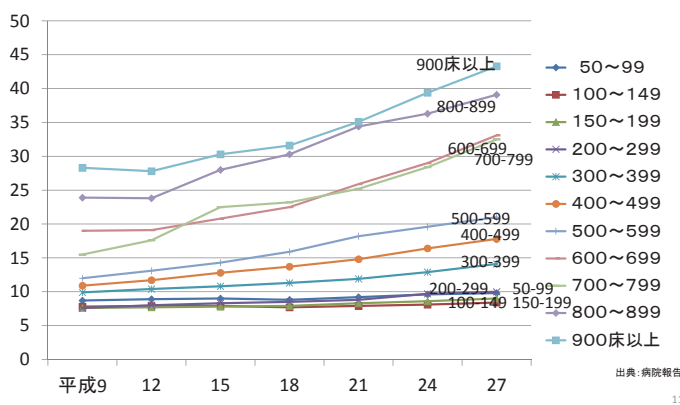


人口10万人あたり病院数



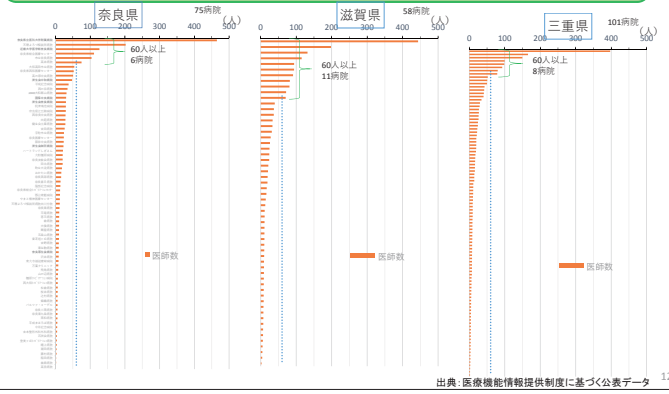
100床当たり医師数 (病床規模別)

● 一般病床200床～300床台の中規模病院は、100床あたりの医師数も少ない傾向がある。



病院ごとの医師数

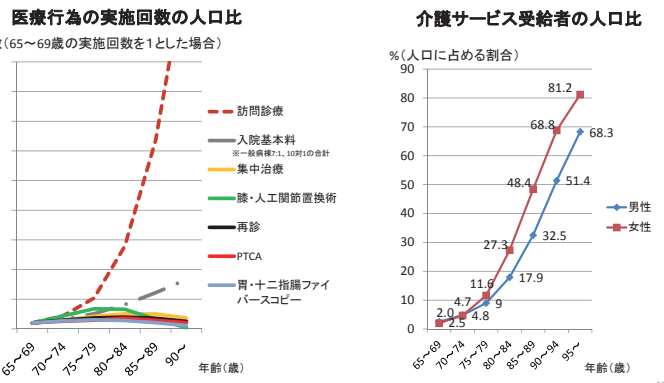
● 奈良県内における医師不足感の原因として、100床あたり医師数の少ない中規模の病院が多く、こうした病院に医師が「散在」していることが考えられる。



3 患者数の動向と医療機関の見通し

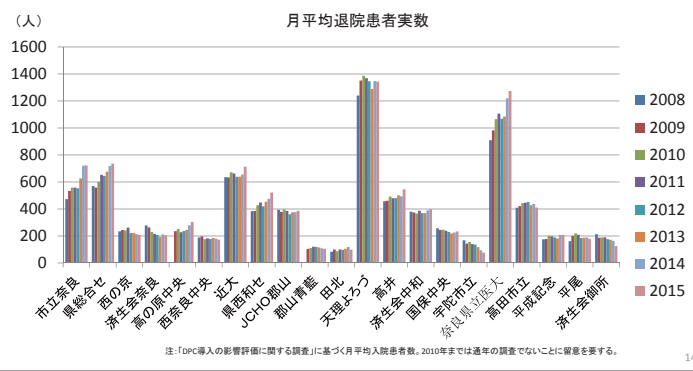
年齢階級別の、医療介護サービスの利用者の割合

75歳未満と75歳以上で、高度な医療の需要には大きな差が見られない。一方、訪問診療や、介護サービスを受ける者の割合は増える。



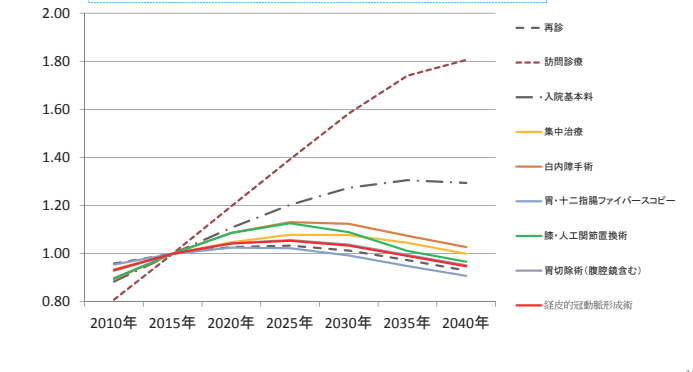
病院ごとの退院患者数の動向

● 大規模病院の入院患者数は増加している一方で、中規模病院の入院患者数は、多くの病院で減少傾向がみられている。



将来の人口の推計に基づく、医療サービスの提供量の推計 (年齢別の医療サービスの実施頻度が現在のままであると仮定)

医療行為の人口あたり実施回数(年齢別)と、奈良県の将来人口推計(年齢別)の積を指数化(2015年=1)したものの



今後の病院経営上の主な課題

奈良県内病院へのアンケート(平成29年2月) 有効回答数 69病院

● 県内の医療機関が抱える課題としては、医師・看護師確保、患者の確保等が上位を占める。

<課題><主な課題>

項目	○	◎	合計
1 医師の確保	36	19	55
2 看護職員の確保	39	9	48
3 その他の従事者の確保	24	1	25
4 患者の確保	32	11	43
5 建物の建て替え	19	3	22
6 設備の更新	28	2	30
7 事業の拡充	5	1	6
8 収支の均衡	21	6	27
9 他医療機関との連携・統合等	17	3	20
10 事業の継承	8	2	10
11 その他	1	1	2

17

考察

○奈良県では、南和地域を除き著しい医師偏在は見られないが、中規模の病院数が多く、医師等の医療資源が散在している傾向にある。

○今後、高度な医療需要の伸びや、医師数の伸びは予想されないが、訪問診療や介護サービスのニーズの伸びが予想されることから、特に中規模病院は、こうした需要を取り込んで、地域に根ざした医療・介護サービスを提供することが求められる。

○過当競争と医師散在の抜本的解決には、医療機関の経営統合等を視野に入れた対応が必要になると考えられる。

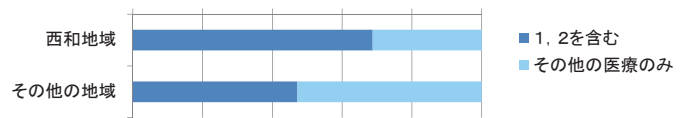
19

奈良県内病院へのアンケート(平成29年2月) 有効回答数 69病院

● 地域によっては、急性期の患者数の減少を、まだ実感していない医療機関も多い。

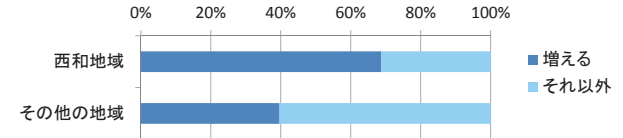
■ 医療機関が現在有している機能

※1 高度急性期 2 急性期(特に医療密度の高いもの) 3 急性期(その他) 4 回復期 5 慢性期 6 精神病床 から選択



■ 2025年までの、重症急性期患者または軽症急性期の患者の入院患者数の見通し (いずれかが「増える傾向」とした医療機関の割合)

※1 増える傾向 2 ほぼ現状 3 減る傾向 から選択



18